

個別目標 3-1 | 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

施策 3-1-4

地域文化の創造とふれあいづくりを進めます



【10年後のめざす姿】

- 様々な分野の文化活動団体が、区内で活発に活動しています。
- 地域の伝統・文化行事に子どもから高齢者まで幅広い世代の人が参加しています。

【10年後のめざす姿にどれだけ近づいたかを測るモノサシ(指標)と目標値】



モノサシ(指標)	現 状	25年度	30年度
大田区の主な文化関連施設 ^{※1} の利用・入館者数(延べ、万人)	144万人 ^{※2} (平成19年度)	150万人	155万人
大田区文化祭、文化センターまつり、区民ギャラリー [*] に出場・出品した人数(延べ、人)	3,203人 ^{※3}	4,000人	4,500人

※1 大田区民プラザ、大田区民ホールアブリコ、大田文化の森^{*}、龍子記念館、熊谷恒子記念館、山王草堂記念館、尾崎士郎記念館、郷土博物館、大森 海苔のふるさと館を言います。
 ※2 この数字には平成20年度に開館した尾崎士郎記念館、大森 海苔のふるさと館は含まれていません。
 ※3 この数字には文化センターまつりの数字は含まれていません。

【現状と課題】

大田区区民活動団体データベース^{*}に登録されている団体のうち、約3割が「学術・文化・芸術・スポーツ」活動に取り組んでいます。また、「文化」を目的に活動している社会教育関係団体^{*}は登録団体全体の約4割と、区民の文化・芸術に対する意識は非常に高いことがうかがえます。

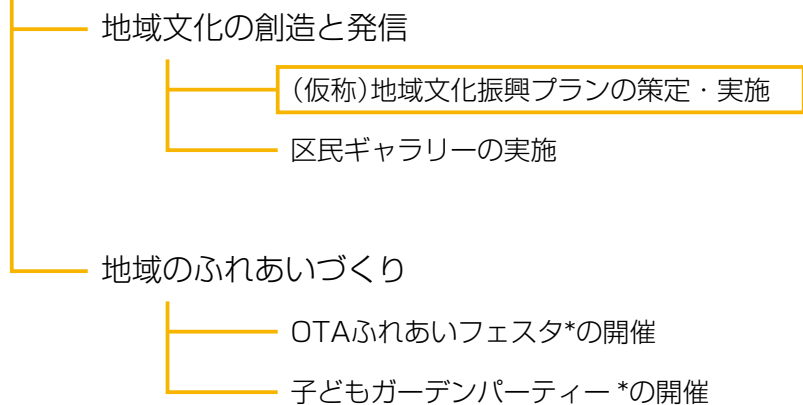
文化・芸術活動は、人の心に潤いやゆとりを与え、豊かな人間性を育みます。人が集い、同じ体験を通して感動を共有することで連帯意識が高まり、ひいては誰もがいきいきと暮らせる地域社会の実現につながります。団塊の世代^{*}の退職期を迎え、今後、文化活動を行う区民や団体が増加していくことが見込まれ、区民の文化活動に対する更なる支援が求められています。

一方、運動会やお祭りなど、自治会・町会^{*}の行事は、参加者の減少や固定化などに伴い、運営の工夫が必要となっています。少子高齢化や核家族化の進行、単身者世帯の増加などによって、地域の連帯感は、以前より希薄になったと言われています。子どもから高齢者まで幅広い世代が、地域で交流することの重要性を再認識し、世代を超えた地域のふれあいづくりに取り組んでいくことが必要です。

【施策の体系】

枠で囲んである事業は、その主な取り組み内容を次ページ以降で紹介しています。

地域文化の創造とふれあいづくりを進めます

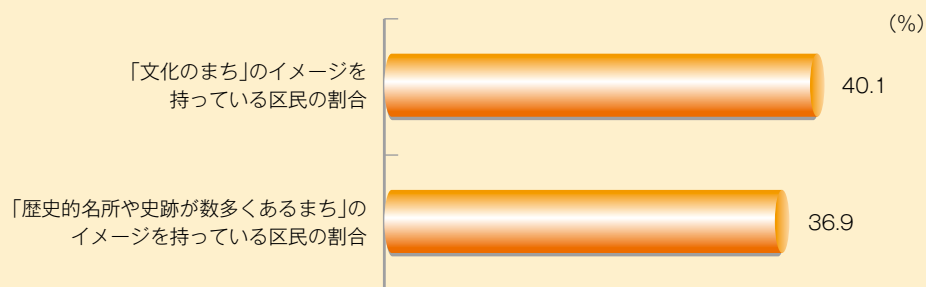


地域の方の作品を特別出張所に展示(区民ギャラリー)



地域で開催された冬まつり

「大田区のイメージ」に関する区民の意識



出典：「大田区の観光に関する基本調査報告書」(平成20年8月)

【 施策の方向性と主な事業 】

① 地域文化の創造と発信

心に潤いや豊かさを感じる生活や地域社会を築くために、文化財の保護や、鑑賞を含めた身近な文化・芸術活動への参加を促進し、大田区文化の創造と発信に取り組みます。

また、馬込文士村*をはじめ地域の文化的資源や、歴史、まちなみなど、地域の特色を活かした地域密着型の文化発信事業を実施します。

計画事業名	(仮称)地域文化振興プランの策定・実施						
主な取組内容	地域文化の振興に対する区の基本的な方向性を示した基本方針を策定します。また、この方針に基づき具体的な文化振興事業を展開します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
地域文化に関する調査		→					
基本方針の策定		→					
実施計画の策定			→				検証
計画事業の実施				→			

② 地域のふれあいづくり

大田区では、参加者が20万人を超える「OTAふれあいフェスタ*」や、子どもと地域との交流の場である「子どもガーデンパーティー*」に代表される地域交流イベントが数多く開催されています。今後も地域や活動団体、事業者*などが主体的に係わる区民のふれあいづくりを積極的に支援します。



2008 OTAふれあいフェスタ 国際交流ステージ



尾崎士郎記念館



大森 海苔のふるさと館・展示室

